

滋賀県下の特殊コレクション

石川正知

滋賀県の公共図書館は数の上でも、規模から言っても、全国最下位にランクされている状況で、県下の集書群の多くは散逸し、他府県に流出している。その一部は滋賀大学経済学部の史料館に収集されている。県立図書館も第二次大戦の終戦直前の創立で、旧大津図書館の蔵書と数人の蔵書家のコレクションを中心に発足したが、戦後の借ぜまいのまま、独立館を持つことなく今日に至っているために、県下のコレクションを受入れる余裕もないまま過してきている。公立図書館としては県立図書館のほかに、彦根市立図書館がある。町史編さんのために集められた資料を中心に大正5年に開設されたが、戦前は県下で第一の図書館として貴重なコレクションを持っている。

その他、県下には叡山文庫を筆頭に文庫と名のつく集書が多くあるが、特殊コレクションといえるかどうか不明のものも含めて、私自身が見聞したコレクションを紹介することにする。

1 藩政関係資料

近畿全体にいえることだが、県内に在藩した各藩主は彦根藩を除いて、版籍奉還とともに滋賀県をはなれてしまったこともあって、ほとんど地元には藩政資料は残されていない。

彦根藩と井伊家の資料は現在も彦根市長である井伊家において整理保管され、さまざまな形で紹介されている。また、彦根町史編さんのために、北村寿四郎が収集した井伊家と彦根藩関係の資料が、その原稿とともに彦根市立図書館に引き継がれている。北村寿四郎文庫とでも名付けられるこのコレクションは同館刊行の郷土資料目録第1集に収録してある。彦根藩校「弘道館」の蔵書は、県立彦根東高校図書館と滋賀大学教育学部図書館にある。安政年間に作成された『弘道館書籍目録』が県立図書館にあるが、それぞれの分散と残存状況はまだ調べたことがない。東高校のものは展示会目録、滋賀大学のものは蔵書目録古書之部に収録されている。

膳所藩資料は、関東大震災の時にその大部分を本多家のもとで焼失したというが、一部は県に引き継がれている。その主なものは膳所藩政日記、郡方日記、諸事留帳などで慶安4年のものからあり、町絵図、村絵図や争論図など絵図類のほとんどが、県指定文化財として、保管されている。それぞれ、保存簿冊目録(6)と近江国各郡村絵図目録書に収録されている。絵図は膳所藩以外の旧藩から引き継がれたものもあるが、城絵図などは膳所藩以外のものはない。

昭和45年に膳所本多神社境内に、本多家の一族によって膳所藩資料館ができ、旧藩

士などからの寄贈・寄託もあり、昨年になって、文書、記録類の保存のために第二資料館がつくられた。これらの資料は一応の整理は出来ているが目録をつくるまでにはなっていない。膳所藩校遵義堂の蔵書は県立膳所高校と県庁に分散して所蔵されているが、目録はないようである。

その他の小藩の資料は、水口藩校翼輪堂の蔵書が町立水口図書館に、西大路藩資料が日野町西大路公民館に、大溝藩のものが分部家家宝保存会（高島町）にそれぞれ、その一部が残されている。

2 庶民資料など

県下の社寺や部落、個人の家などには、まだ多くの史料群が残されている。これらはそのままの形では特殊コレクションとはいえないのであるが、一応利用できる形で整理され目録も作られているものは挙げておこう。

滋賀大学経済学部史料館には近江商人の家文書、宿場文書を中心に社寺文書、部落共有文書など、約105件10万点ばかりが、保管されている。これらは整理されたものから、順次その紀要に掲載されている。

滋賀県市町村沿革編さんの折に県下から採集した写真およびフィルム、380件の文書が県立図書館に所蔵されている。文書名のみで内容記載はないが、『滋賀県市町村沿革史編さん資料目録』に掲載されている。なお、同じ時に採集された古文書と明治以降の各町村の役場文書や、統計類の集計表、採録原稿も同館に保管され、全部で5千点をこえる貴重なコレクションになっている。

また、県庁には県史編さんの折に採集影写されたものが、和装約150冊にまとめられ保存されている。この内容は、前記保存

簿冊(6)のほか、『滋賀県市町村沿革史』第1巻にその目録が掲載されている。

彦根市立図書館には、町史編さんの折に収集されたものも含めて、さきに書いた北村寿四郎文書（文庫とは同館ではない）のほか、それぞれ特色をもつ高橋文書、奈越江文書、村田文書、平石文書、弘世文書、安居文書などがある。筆写原稿もあり、また文書分けも明確ではないが、特殊コレクションといえる。ほかに、伝馬町文書や犬上郡私立教育会の収集した資料群があり、それぞれ『郷土資料目録』第1～5集までに収録されている。

そのほか、整理され目録が出されているものに、深川共有文書、寺庄共有文書、葛木共有文書があり、甲賀那甲南町の服部源一郎という篤志家によって、目録が印刷刊行されている。この共有文書の保存状態はよく、なかには、明治・大正・昭和を経て最近までの資料までも残されている。目録も資料群として出来ていないが、県立図書館には堅田北村又三郎文書、大津鍋屋町文書が所蔵されていることをつけ加えておく。

3 個人収集資料

個人の集書はそのままの形では、特殊コレクションとして、ここにとりあげるわけにはいかない。当然、個人の集書が何かしらの形で引き継がれ、利用できる状況にあるものをわかっている限り書きあげてみたい。

叡山文庫は全体が天台宗関係を特殊コレクションといえるが、その中には「天海蔵」といわれる東京上野寛永寺の開基である僧天海の約5千冊の蔵書が収められている。これは宗教関係はもとより、中国の文学書から芸術関係など近世初期の知識人の

蔵書として幅広い内容をもっている。さらに慈眼や普潤和尚などの多くの高僧の蔵書が各坊から集められ同文庫は約30の集書群で10万冊をこえる大コレクションを形成している。

県立図書館には郷土史家今井清右衛門の収集した滋賀県関係資料「湧出文庫」がある。冊子約380点、文書絵図類80点で、その主なものは同館発行の『郷土資料目録』第1集、第2集に収録されている。そのほか同館創立当時の寄贈書や県医師会長をしていた西田太郎所蔵の数千冊のコレクションなどあるが、独自のコレクションとして整理されていないために紹介できない。

伊香郡余呉村出身の東京で弁護士をしていた杉野文弥が明治35年に郷里に杉野文庫を設け、これが同39年設立された財団法人江北図書館として発展したが、杉野の蔵書のうちに寄贈され杉野文庫として現在も同館にある。

高島郡青柳にある藤樹書院に藤樹文庫がある。中江藤樹の遺書と同学派の書籍を収集して明治38年より公開されていたが、戦後は公開の文庫としてでなく、収蔵コレクションとしてその一部が展示されている。湖西地方には、浅見綱斉の綱斉書院、熊沢蕃山の蕃山文庫などがあるが、そのコレクションは今では名残りをとどめるだけである。

県史、郡史、町史などの編さんに従事した郷土史家の集書がさまざまな形で残されている。初期の県史編さんに力をつくし、栗太郡志などを編さんした北川舜治(静里)の蔵書が静里文庫(草津市)に、蒲生、坂田郡志編さんの中心になった中川泉三の章斉文庫(山東町)のほか、郷土史家小堀甚三郎の如水文庫(八日市市)、中神利人の天弓文庫が、膳所藩第二資料館に、また里内勝

次郎の里内文庫(栗東町)などがある。里内文庫は戦後散逸も多く、現在は新聞雑誌の切抜と若干の軸物と原稿などを残すのみであるが、その一部が滋賀大学史料館に栗太郡文書、高島郡文書として収蔵されている。こうした中でとくに貴重なコレクションとしては、八幡町史の編さんと新聞『太湖』に関係した真崎文庫がある。『太湖』は大正末期から昭和15年までに近江八幡で発行された異色の新聞で、町史編さんと結びつき、また、近江商人の養成校である八幡商業高校の同窓会—近江尚商会の機関紙もかねたものであった。この編集者近松文三郎の集書と日記、町史編さん資料が、その発行者である真崎重右衛門を通じて、いまは滋賀大学史料館に所蔵されている。この文庫には八幡商人西川吉輔家、西川伝右衛門家、谷口家、市田家などの文書約4千点も含まれ、維新の志士と深いかかわりのある西川吉輔や北海道の開拓に関係した西川伝右衛門家など八幡商人資料の宝庫でもある。

彦根市立図書館には現市長井伊直愛の父直忠の蔵書、仏教、易学、能楽、本草、暦学関係の資料を中心に約2万冊が琴堂文庫として、また、門野寅吉の維新関係の集書1,387冊が開国記念文庫として保存されている。

そのほか、民俗関係のコレクションとして能登川町に三正文庫、新旭町に五十櫃文庫の名で個人が所蔵しているが、調査ができていないので、その由来などは知らない。

4 その他

戦前、県の郷土史料を中心に約2万冊の蔵書をもっていた下郷共済会文庫は戦後その蔵書のほとんどが売られ、現在は長浜町

